

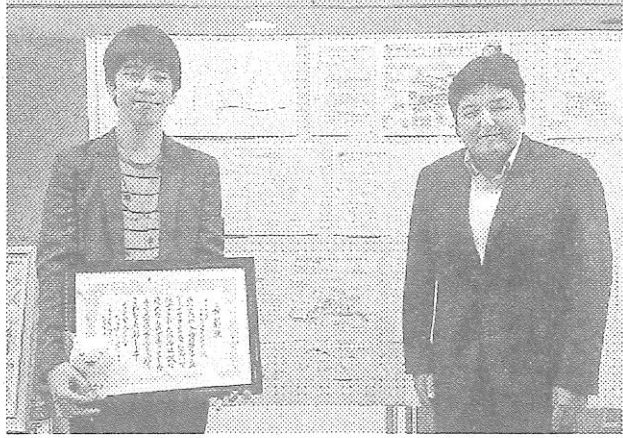
# 生態系学ば空間に

熊谷

## ムサシトミヨ 市民ら活用法提案

希少魚のムサシトミヨが生息する熊谷市佐谷田の元荒川沿いにある緑地「エコオアシス」の活用法を市民らが考えるコンテストの表彰式が、江南総合文化会館ヒアで開かれ、約200人の市民らが参加した。主催はNPO法人エコネットくまがや（後藤素彦代表理事）。

（タウン記者・栗原和江）



最優秀賞に輝いた白江真一郎さん（左）と、エコネットくまがやの後藤素彦代表理事

エコオアシスは水辺環境の保全のため、2009年に県が購入した緑地4576平方メートルがある。市民などから活用

プランを募集し、11団体から応募があった。最優秀賞に輝いたのは、東松山市の白江建築研究所職員、白江真一郎さん（28）。住民参加で元荒川沿いに遊歩道の整備や、昔の熊谷の風景の再現などを提案した。賞金10万円が富岡清市長から授与された。

審査員長で東京農業大学教授の木村俊昭さんは「遊水、生態系を学べ、子どもと大人が一緒になれる空間づくりを評価した。特に白江さんのプランは地域経済活性化を視野に入れた点良かった」と話した。白江さんは「3年後をめどに実現に向けて具体的

に動いてほしい」と行政の取り組みを期待した。

そのほか優秀賞2点は、県生態系保護協会熊谷支部と立正大学学生グループの「地球にやさしい会」が選ばれた。

第2部では「地域創生、成功の方程式はあるのか」と題し木村審査員長が講演。地場産焼酎の販売などで行政に頼らないまちおこしに取り組む鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落（通称・やねだん）などの成功例を紹介した。